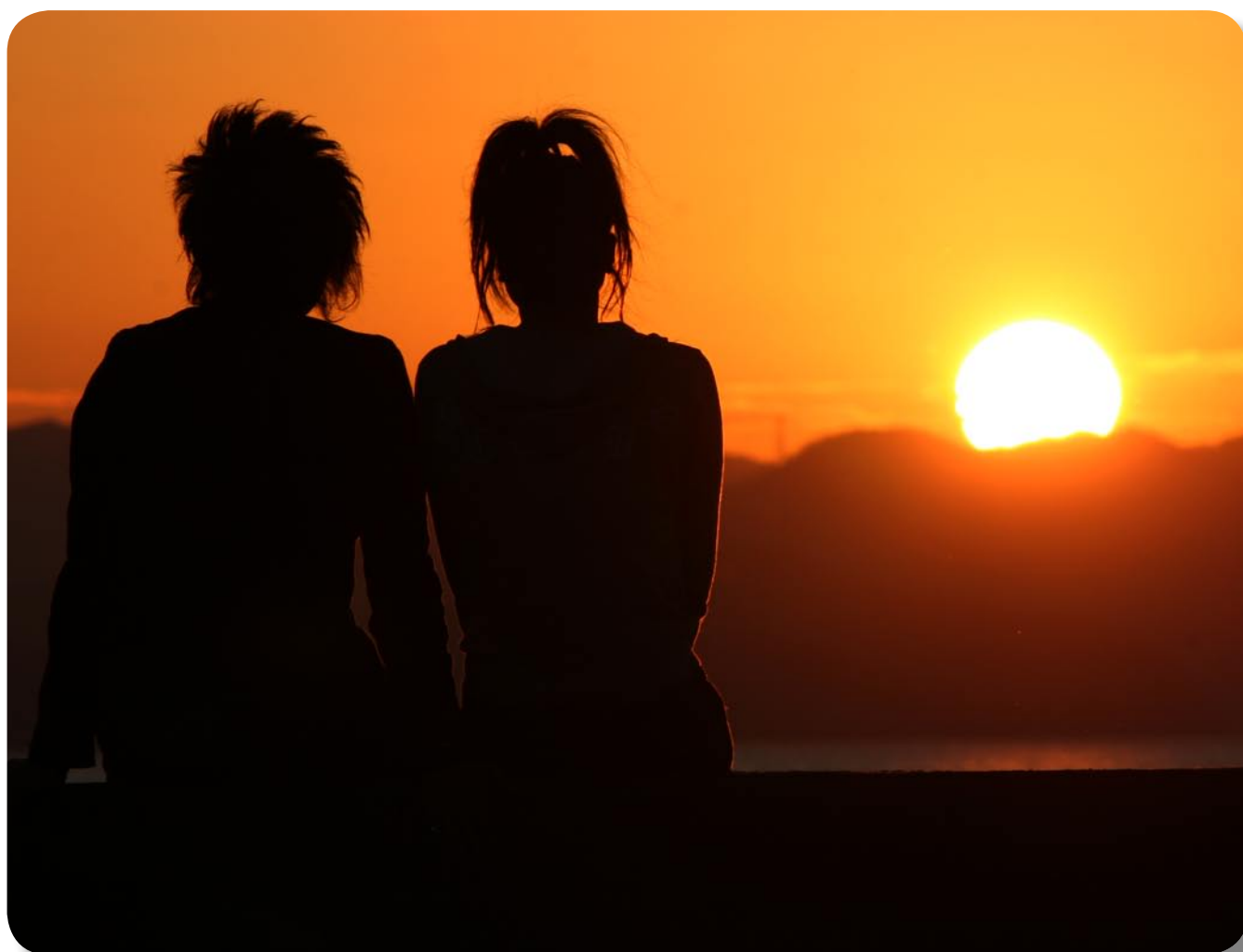


# 広報 おばま

2006

12



— 夕映えのころ —

秋は夕日が美しい季節。すべてのものをオレンジ色に染めます。

(11月9日・西津福谷)

— 今月の主な内容 —

---

「若狭おばま型」介護予防事業	……………	P 2
市長表彰・文化奨励賞	……………	P 4
第 12 回小浜まち景観賞	……………	P10
情報ボックス	……………	P12
ご意見箱、法律相談 ほか	……………	P13
フォトニュース	……………	P14
くらしの情報	……………	P16

---



菜飯

(材料)  
 コメ …2合    ホウレンソウ …2分の1束  
 酒 …小さじ1と2分の1    薄口しょうゆ …少々  
 塩 …少々

(作り方)  
 ①ホウレンソウは塩を入れた熱湯でゆでる。水であら熱を取って絞り、細かく刻み酒、薄口しょうゆを絡める  
 ②コメを炊き、①の水分を軽く絞って混ぜ合わせる



高野豆腐の白あえ風

(材料)  
 高野豆腐 …3枚    ホウレンソウ …2分の1束  
 ニンジン …45㊚    白すりごま …大さじ4  
 塩 …少々  
 ④ (マヨネーズ 30㊚、ポン酢 35cc、砂糖少々)

(作り方)  
 ①高野豆腐を水で戻し薄く切る。ニンジンは3㊚の短冊切りにしてゆでる。ホウレンソウはゆでて3㊚に切る  
 ②鍋に水と高野豆腐を入れ、中火にかけふたをして7~8分煮る。高野豆腐が煮くずれくらい柔らかくなったら塩を入れて火を止め、ザルに上げて絞る  
 ③すり鉢で②の高野豆腐を細かくつぶして冷ます  
 ④ボウルに③と白すりごまを混ぜ合わせておく  
 ⑤ニンジンとホウレンソウを④に加え④を合わせる



でっちようかん

※でっちようかんの材料、作り方は、広報おばま(平成18年1月号3ページ)をご覧ください。



のっぺい汁

(材料)  
 里芋 …3個    ニンジン …40㊚    焼き麩 …6個  
 生シイタケ …3枚    平こんにゃく …4分の1枚  
 かまぼこ …4分の1本    片栗粉・水 …各大さじ1  
 水 …900cc    だし昆布 …1枚    かつお節 …3㊚  
 薄口しょうゆ …40cc    塩 …小さじ2分の1

(作り方)  
 ①鍋に水を入れだし昆布をつけておく  
 ②里芋の皮をむき適当な大きさに切る  
 ③焼き麩を水で戻しておく  
 ④シイタケ、かまぼこを薄切りにし、ニンジンは拍子切りにする。こんにゃくは熱湯で下湯し、細かい拍子切りにする  
 ⑤①に火をかけ沸騰直前にかつお節を加える。沸騰したら昆布とかつお節を取り出す  
 ⑥⑤に里芋、ニンジン、シイタケを加え、アクを取りながら煮る。柔らかくなったらこんにゃく、かまぼこ、焼き麩を入れ、薄口しょうゆ、塩を加える



焼きサバと谷田部ネギの煮付け

(材料)  
 焼きサバ …1尾    谷田部ネギ …160㊚  
 ショウガ …15㊚  
 ④ (水 260cc、しょうゆ大さじ4、砂糖大さじ2、みりん大さじ1、酒大さじ1)

(作り方)  
 ①焼きサバを串から抜き、大きめにほぐしておく  
 ②谷田部ネギは5㊚の斜め切りにする  
 ③ショウガを半分に切り、皮付きのまま薄切りにする  
 ④鍋に④と③を入れて強火にかけ、煮立ったら①を入れて7~8分煮る  
 ⑤④に②を加え5分煮る  
 ⑥器に盛ったら残りのショウガを千切りにして飾る

介護予防を進めるため四月からスタートした改正介護保険制度。食のまちづくりを進める小浜市では、その内容を踏まえ、食を活かした「若狭おばま型」介護予防を学ぶ研修会を十一月十日に開催しました。

今後、市のまちづくりのテーマである「食」を切り口としたさまざまな取り組みを進めていきます。

■問い合わせ  
 健康長寿課  
 ☎内線161へ

《介護予防サービス》

①運動器の機能向上  
 理学療法士などの指導により、ストレッチや有酸素運動、簡単な器具を用いた運動などを行う

②栄養改善  
 管理栄養士などが、栄養改善のための食べ方や食事づくり、食材の購入方法の指導、情報提供などを行う

③口腔機能の向上  
 歯科衛生士などが、歯磨きや義歯の手入れ方法、そしゃく機能の訓練などを行う



このような中、食のまちづくりを進める市では、新予防給付および介護予防事業のサービスとして導入された「栄養改善」を中心に、介護予防策に取り組んでいくことになりました。

特に、市に古くから伝わる伝承料理・郷土料理(スローフード)が、病気や寝たきり、認知症を防止する効果的な手段の一つであると考えられることから、介護予防の担い手であるケアマネジャーや介護サービス事業に携わる関係者などを対象に、各種研修会や調理体験実習などを開催し、「若狭おばま型」介護予防を推進していきます。

「食」を活かした「若狭おばま型」介護予防事業

介護予防サービス  
 自分で動けなくても、要支援1・2の人を中心に介護予防サービス(左記を参照)を始めました。

「若狭おばま型」介護予防がスタート  
 小浜市では現在、高齢化率が約二十六%となり、四

このため四月から、要支援1・2の人を中心に介護予防サービス(左記を参照)を始めました。

人に一人が六十五歳以上の高齢者という状況です。また、六十五歳以上の高齢者約八千四百人のうち、十六%にあたる約千四百人が要介護認定を受けており、要介護認定率が年々高くなるとともに、介護サービスの利用や費用も多様化かつ増大化してきています。

# 市長表彰・文化奨励賞

平成十八年度の小浜市長表彰・小浜市文化奨励賞の受賞者が決まり、十一月三日、文化会館で表彰式が行われました。

市長表彰は十一個人・四団体、奨励賞は二個人・一団体、文化奨励賞は三個人・二団体の皆さんです。受賞おめでとうございます。

■問い合わせ 総務課 ☎内線352へ



## 自治振興功労

石橋 和彦 さん  
(谷田部・60歳)



昭和五十八年から平成十五年まで、市議会議員を五期二十年務められました。その間、副議長などの要職を歴任され、市政の発展と住民福祉の向上に大きく貢献されました。

## 文化振興功労

杉田 季美枝 さん  
(城内二丁目・79歳)



昭和五十一年に千鳥会を創設。以来、代表として等および三弦の普及指導と後継者の育成に尽力されています。平成八年からは小浜市文化協会の理事、同十八年からは常任理事を務められ、健全な協会運営と市の文化振興に大きく貢献されています。

## 文化振興功労

永井 甚一朗 さん  
(小浜生玉・77歳)



昭和五十三年から小浜市文化協会常任理事、平成四年からは副会長、同十二年から十八年四月まで会長を務められ、協会組織の強化と文化のまちづくりに貢献されました。また、同十七年度に開催された国民文化祭事業の成功にも大きく貢献されました。

## 文化振興功労

明日の放生祭を考える会



昭和六十一年、有志によるプロジェクトとして立ち上げられて以来、「放生祭」の存続発展と伝統文化の継承に尽力されています。平成八年に「明日の放生祭を考える会」として正式結成し、放生祭の知名度向上と演奏者の士気向上に努められ、市の文化振興に大きく寄与されています。

## 社会福祉功労

大平 孝徳 さん  
(上中井・60歳)



昭和四十四年、小浜市社会福祉協議会に就職。市民に親しまれ福祉ニーズにこたえられる社会福祉協議会を目指し、十数団体のボランティアを育成されました。現在も社会福祉協議会の常務理事として、同会の発展と地域福祉の推進に大きく貢献されています。

## 社会福祉功労

前川 久子 さん  
(水取三丁目・76歳)



昭和六十年から精神障害者の社会復帰と人権回復を目的に、社会福祉法人「若狭つくし会」設立と通所授産施設「つくしの家」開設に尽力されました。また、高齢者の介護問題にも精通し、要介護者や家族の支援、介護保険事業の円滑運営などに寄与されています。

## 社会事業功労

小浜市消費者協議会



昭和五十五年の設立以来、食品添加物や食品表示の研究などに取り組まれ、食の安全に対する消費者意識を向上させるなど食のまちづくり推進に尽力されています。また、環境にやさしい手作りせっけんの製作やリサイクル運動を積極的に展開するなど、食をめぐむ環境づくりに大きく貢献されています。

## 《市長表彰》

政治、経済、教育文化などで市政振興に寄与され、市民の模範となって活躍された個人や団体を表彰するもの

## 《奨励賞》

さん新たな発想や特色ある活動により、まちづくりや産業振興への貢献度が特に顕著であると認められる個人や団体を表彰するもの

## 《文化奨励賞》

科学、教育、文学、芸術、歴史などで著しい業績をあげ、文化振興に寄与された個人や団体を表彰するもの

## 《感謝状》

市制施行五十五周年および食のまちづくり条例制定五周年を記念し、まちづくりへの貢献が顕著な個人や団体に贈呈するもの

## 産業振興功労

石橋 房治 さん  
(栗田・77歳)



昭和二十二年、国富村農業会に入会。平成九年からは若狭農業協同組合代表理事組合長として、社会に信頼される組織づくりと地域農業の発展、振興に尽力されました。この間、福井県農業協同組合中央会の副会長を務められるなど、県下の農業指導者としても活躍されました。

## 産業振興功労

内藤 實 さん  
(城内一丁目・75歳)



昭和二十九年の開業以来、若狭塗箸の生産技術向上に尽力され、機械を導入して各企業の技術開発を促進するなど、若狭塗箸の知名度を全国に広げられました。また、若狭箸工業協同組合の理事を永きにわたって務められ、箸業界の安定と発展に貢献されました。

## 産業振興功労

西岡 佐一郎 さん  
(下根来・71歳)



昭和五十一年、小浜市森林組合に就職。森林の多面的機能を維持、向上するうえで不可欠な植栽、保育、伐採などの施業や病害虫の防除、森林火災の防止などに尽力されました。森林管理作業に愛情を持って従事されている姿は、林業従事者育成の指導者として他の模範となり、現在も理事として活躍されています。

## 産業振興功労

橋本 征彦 さん  
(法海・62歳)



平成八年から同十七年まで、小浜市農業委員を三期九年務められ、特に同十四年からは会長として市の農業振興に尽力されました。また、同十七年には県内四万農家の代表として、宮中の神饌にコメとアワを献穀する新嘗祭で献穀奉耕者の重役を果たされるなど、地域農業の発展に大きく貢献されました。

## 産業振興功労

加福 清太郎 さん  
(一番町・62歳)



昭和四十年から若狭塗器製造に従事。福井県伝統工芸士連合会副会長などの要職を歴任され、伝統産業の発展と後継者の育成に尽力されています。特に若狭路博2003では、伝統工芸の職人集団「若狭工房」の代表として、来場者に市の伝統産業を大きくPRされました。

## 産業振興功労

日本電産シバウラ(株)



昭和十八年、(株)芝浦製作所小浜工場として操業を開始。永年にわたり雇用、納税、周辺技術の振興などで貢献されています。また、中国平湖市に工場進出していることから、四月二十五日に結ばれた同市と小浜市との友好交流提携にも大きく貢献されました。

## 産業振興功労

芝浦自販機(株)



昭和二十六年、芝浦小浜铸造所として設立。自動販売機の開発、設計製造を主要事業として、永年にわたり雇用、納税面で貢献されています。平成十七年からからは、自動販売機の製造から販売、サービスまで一連の業務を一本化し、小浜工場を本社として全国で事業を展開しています。

## 【感謝状】

高鳥 有幸 さん  
(谷田部・80歳)



友好都市の中国西安市にある草堂寺と親交が深く、桜の苗木を寄贈されるなど草堂寺周辺の環境づくりに貢献されています。市民使節団派遣(六月二十三日〜二十六日)の際には仲介をされるなど、西安市との友好交流に寄与していただいています。

## 特別功労

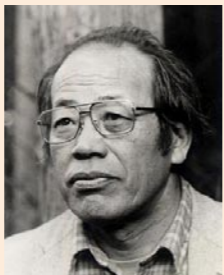
浦谷 兵剛 さん  
(新小松原・61歳)



平成十年から「お箸知育教室」を開催。箸の正しい持ち方を教えるなど食育活動に尽力されているほか、折れた木製バットを回収して箸などの製品にリサイクルし、その収益を環境保全と資源の育成に役立てておられます。また、日本漆文化研究所理事長として中国で講演などを行い、国際交流にも貢献されています。

## 【感謝状】

渡辺 淳 さん  
(おおい町川上・75歳)



平成十二年度から五年間、小浜市近辺の子どもたちに絵画教室を開催していただき、子どもたちの情操教育にご協力いただきました。また、各種団体を対象とした講演会や絵画コンクールの審査員を務めていただくなど、善意でさまざまな行事でお世話になっています。

## 奨励賞



柴田 享 さん  
(新保・58歳)

主に水稲と大麦を耕作。平成六年に福井県指導農業士、同七年に小浜市認定農業者に認定され、地域のリーダーとして活躍されています。同十六年度からは、小浜市水田農業推進協議会会長として水田農業の構造改革に大きく貢献され、市の農業の発展に寄与されています。

## 奨励賞



池田 清和 さん  
(多田・56歳)

主に水稲、園芸作物づくりに取り組まれ、平成五年から福井県指導農業士、同七年から小浜市認定農業者として、農業経営の改善と規模拡大に尽力されています。現在は小浜市認定農業者連絡協議会会長、小浜市担い手育成総合支援協議会委員として広域営農の推進、農業者への支援活動に大きく貢献されています。

## 奨励賞



小浜水産高校  
ダイビングクラブ

平成十七年、小浜湾を澄んだきれいな海にしようと小浜湾アマモマードプロジェクトを開始。環境浄化に効果があるとされるアマモ場の造成に精力的に取り組まれています。食をはぐくむ自然環境の保全と再生への取り組みは市民にも広がり、市が進める食のまちづくり推進に大きく貢献されています。

## 文化奨励賞



松山 善昭 さん  
(須縄・78歳)

昭和二十三年、遠敷郡口名田村青年団に入団し民舞クラブを創設。現在まで、みずからの演技を磨くとともに後進の指導にあたり、大衆芸能としての民舞の振興に努力されています。また、企業や福祉施設で公演を行うなど、市民の娯楽振興と健康増進、さらには福祉活動にも積極的に参加されています。

## 文化奨励賞



一瀬 敏夫 さん  
(荒木・75歳)

昭和二十七年、小浜謡楽会に入会。現在まで謡曲の普及と振興にたゆまぬ努力をされています。平成十一年から小浜市謡曲連合会会長を務められ、謡曲・仕舞大会や市総合文化祭での発表会を毎年開催、参加するとともに、公民館自主学級の講師として積極的に活動されるなど、文化活動に尽力されています。

## 文化奨励賞



小浜児童文学会風夢

保育園、小学校、公民館などへ赴き、子どもたちに本の読み語り、エプロンシアター、紙芝居などを行っています。美しい言葉を子どもたちに語り、思いやりの心や感動する心をはぐくんでいきます。また、中学校では図書室の整理、本の紹介などを行い、読書の普及に努められています。

## 文化奨励賞



玉井 令子 さん  
(小浜広峰・71歳)

書道を愛好し、かな文字では全国的にも優れた書家の一人です。昭和五十六年には「小浜カルチャーハウスめだかの学校」を開設。住居の一部を開放し、芸術を志す若い人たちが集う拠点となっています。また、「山川登美子若狭を謳う」実行委員会事務局を、第一回開催時から務められています。

## 文化奨励賞



アンサンブル若狭

平成二年、弦楽器演奏愛好グループとして結成。文化会館を活動拠点とし、養護学校、友愛園など福祉施設への慰問などを行っています。同十年には市文化協会に加盟し、同年より市総合文化祭に出演。地方ではなかなか接することのできない、生の弦楽合奏を広く市民に聞いていただく活動をされています。

## 【感謝状】



島津 寿子 さん  
(若狭町小原・65歳)

平成五年から吟舞の普及啓発にご協力いただいています。同十五年には当時の上志比村で、拉致被害者家族の濱本雄幸さんが詠んだ漢詩を吟舞で表現され、拉致問題の早期解決を呼びかけて集めた募金を市に寄付していただきました。

## 【感謝状】



アマモサポーターズ

平成十七年に設立。小浜水産高校ダイビングクラブの皆さんが取り組む「小浜湾アマモマードプロジェクト」を市民レベルで支援されています。近隣の子どもたちや漁家組合員などと連携、協力し、市が進める食のまちづくり推進に大きく貢献していただいています。